

キャラクター名  
八来 理樹(やらい りじゅ)

プレイヤー名

シンドローム	オルクス ノイマン	ワークス	何でも屋	カヴァー	探偵
オプション		年齢	21	性別	女
覚醒	忘却	衝動	恐怖	初期侵食率	34 %
出自	結社の一員	経験	記憶喪失	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	0	1	0			1	行動値	6
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	6
精神	4	0	0			4	戦闘移動	11
社会	3	0	1			4	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	3	
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
浮揚する因果律		0				12/cost6
思弁網		0				34/cost10

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
----	----	----	----	----	----

所持品	
コネ:UGN幹部	
コネ:噂好きの友人	
コネ:要人への貸し	
コネ:手配師	
ウェポンケース	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
誰か	P 尽力	N 不信心		
記憶の中の誰か	P 慕情	N 悔悟		
テレーズ・ブルム	P 庇護	N 隔意		
シューラ・ヴァラ	P 尽力	N 敵愾心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 14    残り財産P: 8

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
天性のひらめき	2	4	Xジャー	至近	自身	-	-	
効果: 判定C値-Lv,戦闘中不可								
リフレッシュ	1	5	オート	至近	自身	自動	-	
効果: 重症中使用可,暴走以外のバッドステータスLv回復,1シナリオ1回								
妖精の手	2	4	オート	視界	単体	自動	-	
効果: 判定ダイスのひとつを10にする,1回の判定につき1回,1シナリオLv回								
力の法則	3	4	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果: 自分以外のダメージに+[Lv+1]D, 1 R1回								
ファンアウト	1	4	セットアップ	至近	範囲(選択)	自動	-	
効果: 対象は戦闘移動,自身対象不可,1シナリオLv回								
戦術	5	6	セットアップ	視界	範囲(選択)	自動	-	
効果: ラウンド中のXジャー判定ダイス+Lv個,自身対象不可								
地獄耳	1	-	Xジャー	至近	自身	-	-	
効果: 領域内の情報はぜんぶわかる								
究極鑑定	1	-	Xジャー	至近	自身	-	-	
効果: 未知のアイテムのことがよくわかる								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

人目につかない雑居ビル4Fに事務所を構える、表向きにはフリーランスの探偵。基本的には穏やかだが、臆病さ故に拒絶すると頑固な性格。12歳になった冬にある集いに年上の誰かと訪れた際に起きた何らかの事件に巻き込まれたことにより、それ以前の記憶をほとんど失っている。UGN施設に保護された際も自分の名前と力の使い方は覚えているが、クロスブリードを発症したことが判明。その後身元確認が難航しているうちに言い知れぬ恐怖感からUGN施設を脱走。現在は自らが何者なのかを知るために、探偵を名乗って情報収集を行っている。要請されればUGNに協力するが、FHなどのジャームはもちろんな戦闘員であるUGNのオーヴァードや戦場に無条件の恐怖を抱いてしまうためエージェントになるつもりは今のところない。

【戦闘スタイル】  
領域〈apocarnic-haven〉の主であることを示す杖をその辺りにある物質から生成する。日常生活ではこの杖を洗濯物を干したり高いところにある物を取ったりするのに使っているが、戦場でも理樹の恐怖心を写し取って多少禍々しい形になる以外にはほぼ使用者の望む通りに動く。戦闘が終了するか理樹が死亡すると杖は自動的に破壊される。  
自分で戦うことができないため、味方の神経系・ひいてはレネゲイドを活性化させ、領域内の因果律を書き換えることで援護する。しかし独力で守り戦うことができないのはもちろん、主従関係を結ぶようなシンドロームの能力にも引け目を感じている。その人の人生が刻まれたレネゲイドや脳神経を触発することは土足で他人の心に立ち入るようで罪悪感を覚え、力の増幅が相手の人格に影響を与えてしまうことを本能的に危惧しているためである。とは言い、支援による恩恵の代わりに膨大な心身エネルギーを消費した後でもなお立ち上ることができる戦闘員たちにはやはりコンプレックスを覚えつつも尊敬の念を抱いている。

Crumble days HO5